

2. 地区の状況から見た特性

(1) 地区の状況から見た特性 [⇒P47～50 参照]

■健康・レクリエーション等利用

- ・周辺市民等による市民菜園的な農的利用、野球場やゲートボール場として活用
- ・ただし、不特定多数の一般利用には供されていない

■水・緑・オープンスペース

- ・大半が人工草地から構成され、一部南部に比較的発達した樹林地が域外に連続する形態で分布
- ・植生は下刈り管理された雑木林であり、低茎アズマネザサ林床のクヌギ・コナラ林が一部に存在

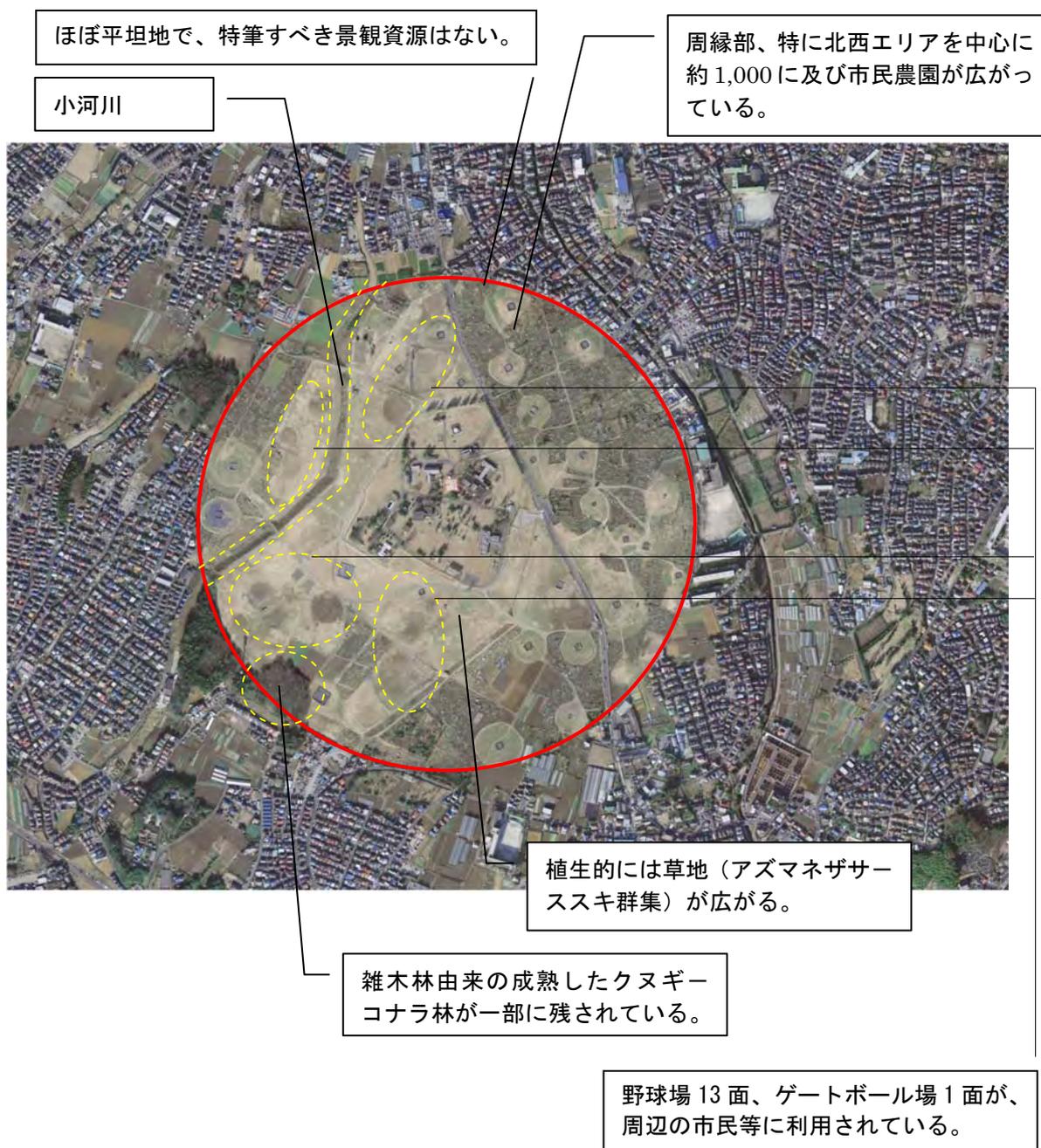
■景 観

- ・上記樹林地位外では、特記すべき景観資源はない
- ・平坦な地形的特性等から、景観眺望の面からも特に優れた資源はない
- ・なお、市民菜園的な利用が行われている区域では、小区画ごとにバラバラで無秩序な景観を呈しており、改善が必要

■防 災

- ・境川支流の小河川が地区を一部縦断
- ・地形的にはほぼ平坦であり、雨水浸透能も低い

(2) 地区内（及び周辺）の特性等の状況



(3) 地形・植生等の状況

《地形地質状況》

- ・地質的には関東ローム台地の平坦地で、一部に谷底平野（沖積低地）が入っている。
- ・対象地には、小さいながらも河川が流れている。

《過去の植生状況》

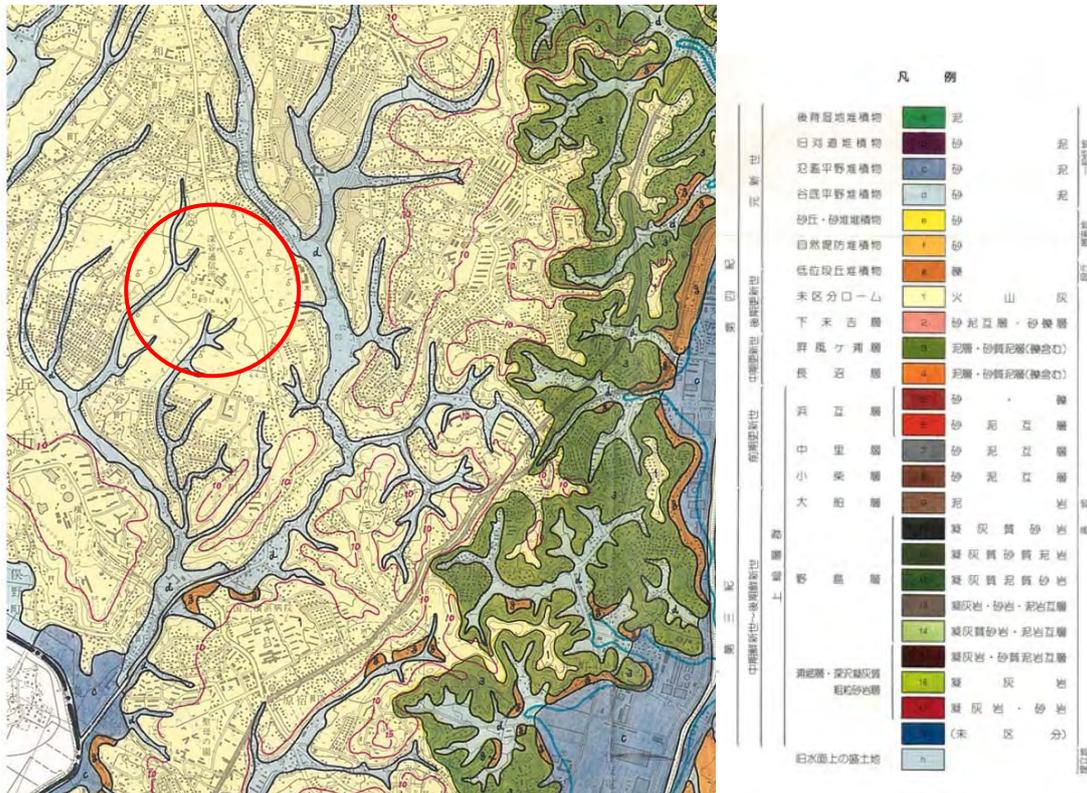
- ・かつては、農地と平地林（コナラ林）とスギ・ヒノキ林から成っていた。
- ・潜在自然植生は、シラカシ林。霜の降りる少々寒いエリアの常緑広葉樹林。

《現在の植生状況》

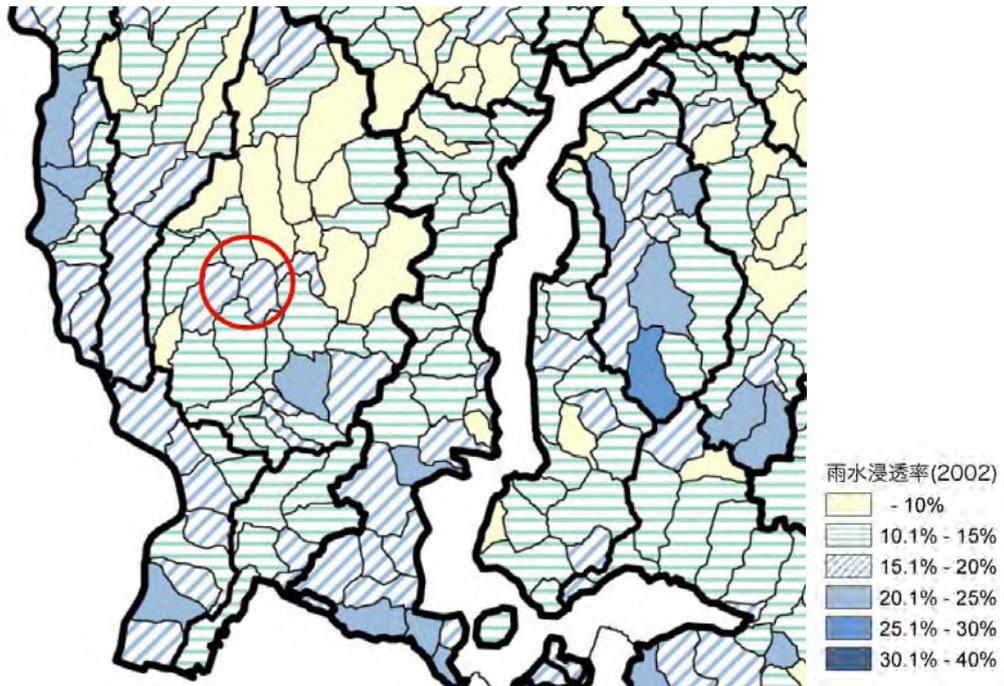
◆典型的な雑木林

- ・下刈り管理のされた雑木林。低基アズマネザサ型林床のクヌギーコナラ林で、西縁には植林起源のシラカシーヒノキ林を伴う。

《地形・地質区分図》

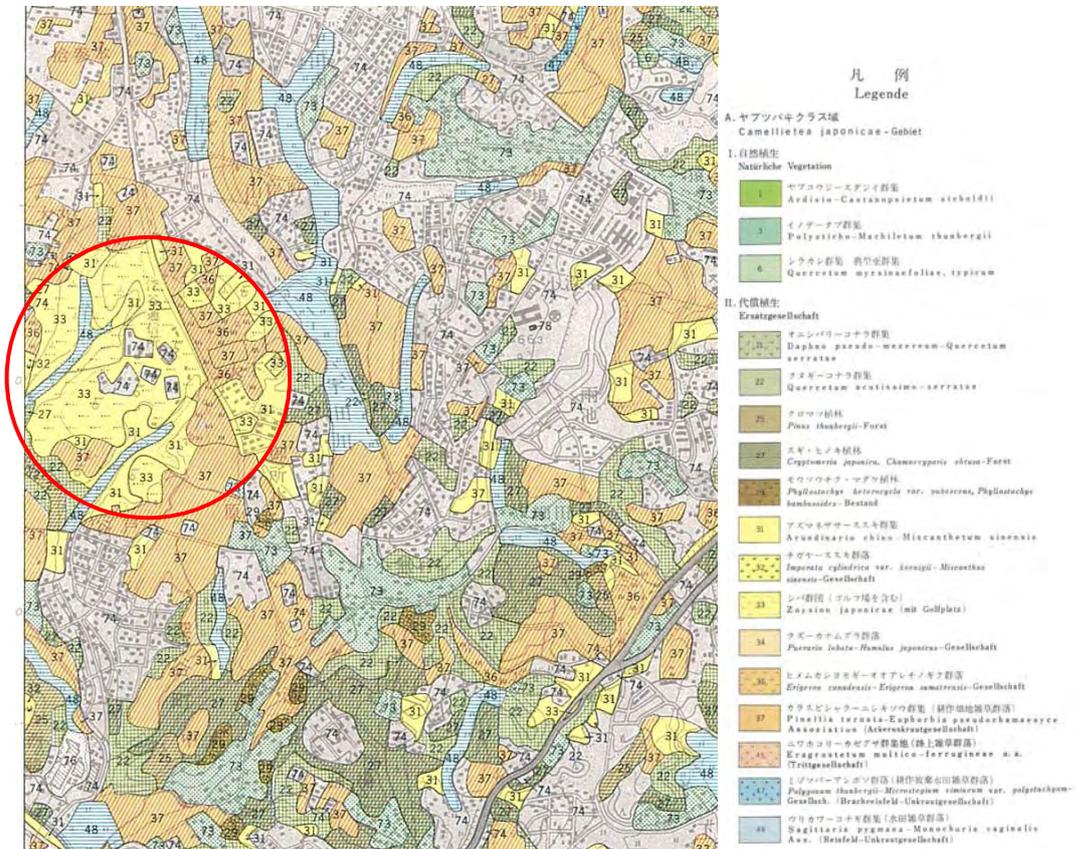


《雨水浸透率図》

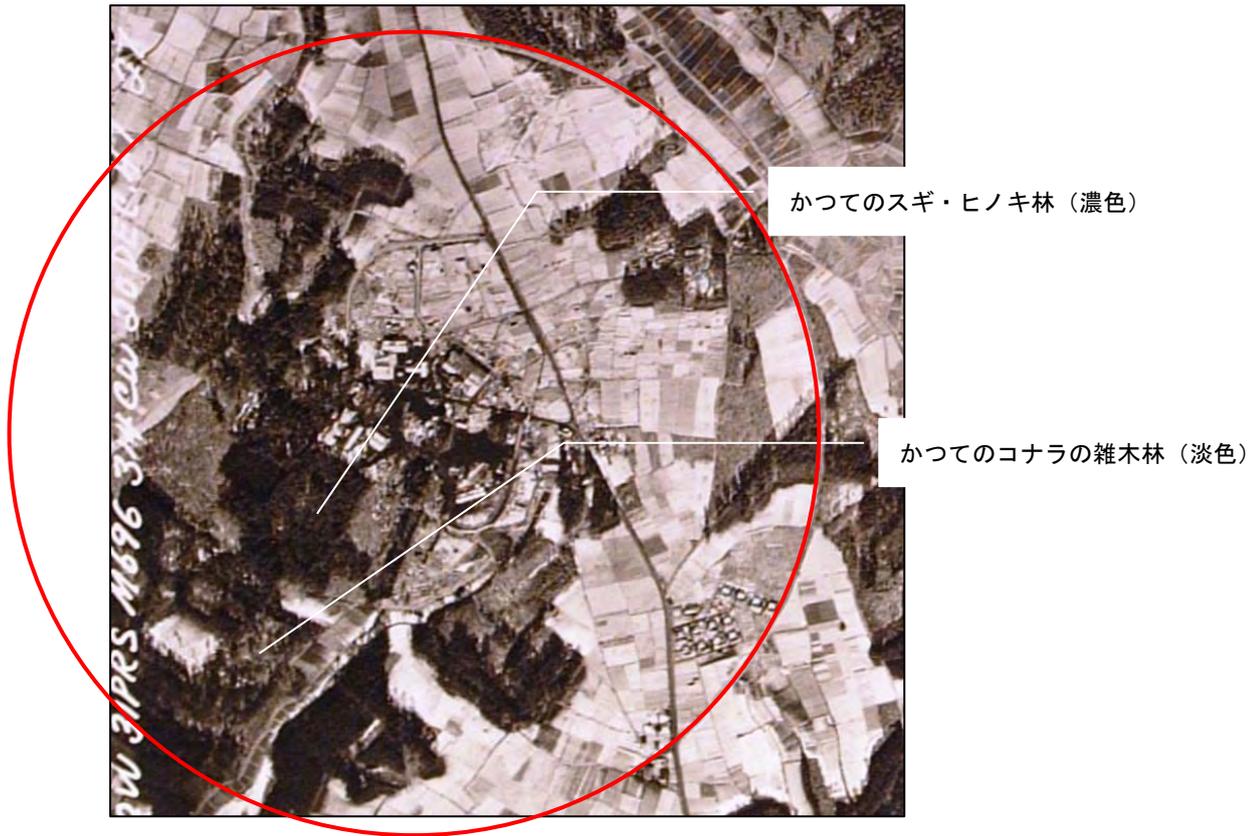


(慶應義塾大学石川幹子研究室提供データ)

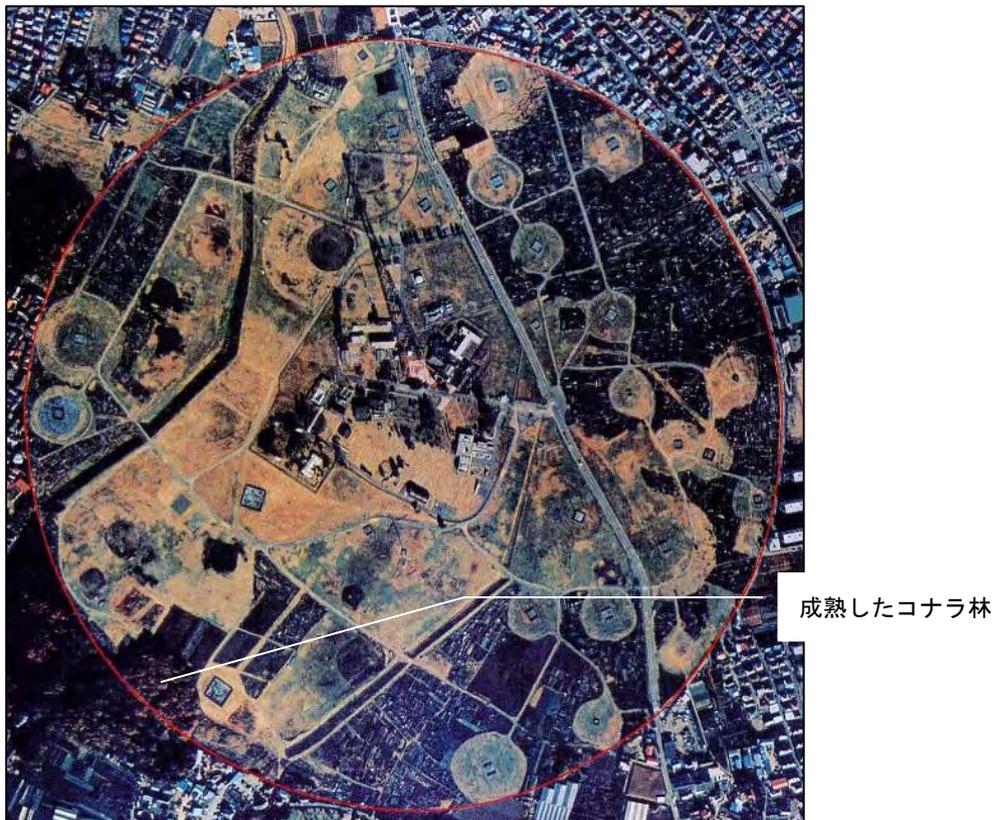
《1971年植生図》



《植生の変遷：昭和22年12月20日撮影》



《植生の変遷：平成11年12月8日撮影（現況）》



3. 地区の水・緑等が果たしうる機能

価値分類	機能	価値の種類(例)	深谷地区における価値				
			現状	可能性			
利用価値	健康・レクリエーション空間の提供	①健康促進	◎	◎	★	<ul style="list-style-type: none"> ・現状は周辺住民等の一部市民のスポーツ・市民菜園的な利用 ・今後は、<u>公園緑地空間の充足度が非常に低い</u>当地区における利用ポテンシャルは非常に大 	
		②心理的な潤いの提供		◎			
		③レクリエーションの場の提供	◎	◎			
		④文化的活動の基礎		◎			
		⑤教育の場の提供		◎			
	間接利用価値	都市環境維持・改善	①緑地の保存	◎	◎	★	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲が密集的市街地に囲まれた当地区の立地特性から、都市気候の緩和等環境調節機能のポテンシャルが特に大 ・あわせて、身近な自然との触れ合い空間としての整備の可能性や必要度も大
			②動植物・昆虫の生育環境提供	*	*		
			③食料確保				
			④ヒートアイランド現象の緩和	◎	◎		
			⑤気候緩和	◎	◎		
			⑥二酸化炭素の吸収		*		
			⑦騒音軽減		*		
			⑧森林管理・保全、荒廃防止		*		
	都市景観		①良好な景観の保全・提供	*	◎	★	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では<u>景観形成機能は低</u> ・周辺の密集的市街地に対する良好な景観形成拠点として整備の可能性・必要度は大
			②都市形態規制	◎	◎		
	都市防災		①洪水調整	◎	◎	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある敷地形態を活かし、市街地の拡大防止・形態整序に寄与しうる可能性は非常に大 ・源流域における自然的緑地は、中下流域に連担する市街地に対する治水上の観点からも重要な保水機能を有する ・同様に、周辺の密集型市街地に対する火災延焼防止機能の重要度も大
			②地下水涵養	◎	◎		
			③災害応急対策施設の確保		○		
			④強固な地盤の提供				
			⑤火災延焼防止・遅延	○	◎		
⑥防風・防潮機能				*			
⑦災害時の避難地確保			*	○			
⑧災害時の救援活動の場確保			*	○			
⑨復旧・復興の拠点確保			*	○			

	オプション価値 (現在は利用しないが、将来の利用を担保することによって生じる価値)		
非 利用 価値	存在価値 (存在することを認識すること自体に喜びを見出す価値) 遺贈価値 (将来世代に残す(将来世代の利用を担保)することによって生じる価値)	*	

注: 価値分類体系は、「改訂大規模公園費用対効果マニュアル」(国土交通省、平成16年2月)における価値体系を使用

◎/★ : 特に重要な機能を有する ○/☆ : 重要な機能を有する * : 何らかの機能を有する
効果波及圏域範囲 ■ : 広域(マクロ) ■ : 中位(メソ) ■ : 地域(マイクロ)

4. 水・緑等の視点からの保全・活用の可能性

(1) 横浜市における位置づけと方向性

～ **自然・スポーツ・文化の円形緑陰空間** ～

- 1 特色あるデザインを持つ大規模な公園・緑地
- 2 交通利便性の向上に資する基盤整備 (外周道路等)
- 3 防災拠点機能の形成

：「横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画 (案)」(平成19年1月、横浜市)による

による

(2) 以上を踏まえた今後の方向性 (水・緑・レクの観点から)

① 居住環境向上に資する公園・レクリエーション空間の整備の方向性

【活用例】

- * 公園緑地等オープンスペースの充足度が低い、当地区周辺における居住環境の向上に資する緑地空間の形成
 - * 景観資源の乏しい当地区周辺における、景観の向上に資する緑地空間の形成
 - * 災害時における周辺住民の避難場所となるオープンスペースと火災延焼防止など防災機能の向上に資するオープンスペースの形成
 - * 苗圃等のある緑の創出・発信拠点づくりの形成
- 等

② 周辺市街地の形態を整序化し、

都市のシンボルとなるオープンスペースの形成の方

向性

【活用例】

- * 連担する市街地の形態・空間の秩序を整え、都市のシンボルを形成する核の形成
- * 土地の有する歴史性や特徴的な敷地形態から、地域はもとより首都圏における記念碑的な位置づけのオープンスペースを形成
等

(3) 実現化に向けての展開の方向性 (検討課題)

A 現状の先行的土地利用との調整

【展開例】

- * 現在の運動・市民菜園等の現況利用形態との調整
- * 市民利用エリア等の設定と利用権等の販売
- * 緑の発信拠点としての寄付・基金・オーナー制度の導入等

B 独創性のある計画の策定

【展開例】

- * 敷地形状が円形で四周が市街地に囲まれた特性を生かした、独創性のある計画の策定
- * デザインコンペの実施による良質な施設デザインの導入
- * 市民・NPOが主体となったシンボリックな森づくり等

